

「福祉現場で求められる職員の質とは何か？－知的障害者支援施設・高齢者施設・老健相談室の職員が実例を通して語る－」と題して実践・研究交流会を開催しました。当日は猛暑にもかかわらず、立場の異なる（研究者、学生、福祉施設職員、ケアマネージャー、弁護士、就労支援事業所、要介護の家族、主婦、在宅支援ボランティア、福祉関係以外の職種など）参加者43名と有意義な意見交換が行われました。

1. クロスブロック・セミナーとは

「職員の質とは何か？」という難しいテーマでの企画は関東ブロックに留まらず他ブロックでも企画中であることから、学会は同テーマでブロックを超えて継続していく意向であり「クロスブロック・セミナー」としました。

2. 第1回のお話提供者は、同じ職場に10年勤務されている職員の方に依頼。

- ・川村紘子さん（社福法人みずき会「八王子平和の家」知的障害者支援施設、日中活動班主任）
- ・青木優子さん（社福法人「キングスガーデン川越」高齢者施設、地域包括センターケアマネ）
- ・小島操さん（老健施設「カタクリの花」相談室ケアマネ（在宅支援12年の有経験）

パワーポイントや資料（配布）を用い、以下の観点から実例を通して語っていただき、後半は参加者と意見交流をしました。充実した3時間で「もっと聞きたかった」「大変参考になった」との声が多く、アンケートには多くの感想・ご意見が記述され、数日後に手紙で感想を送ってくださる方もあり次回への期待が寄せられました。

共通の観点

- ①どのような支援ができることが「職員のよい質」に関係があると考えられるでしょうか。また、それが出来ない（それを阻む）場合は何が問題となっているでしょうか。
- ②あなたが考える望ましい支援とはどのような支援でしょうか。
- ③困難な状況にある人を専門職として支えるのはどのようなことだと思いますか。

3名の「職員のよい質に関係がある」と考えられる共通項目

- ・研修による専門技術や知識の習得。（職場内の研修）
- ・支援者も支援されるその関係づくりが重要であること。
- ・現場では、知識や技術が「わかる」と「使える」とには雲泥の差がある。多くの現場で多くの経験をする事。
- ・トータルなコミュニケーション力が必要である。（コミュニケーションを駆使した関係性の構築）
- ・支援は一人ではできず、チームワークが重要。
- ・支援者の人間性や生き方が問われる（反映される）ので、たえず自分を磨くことが大切である。
- ・思考力・柔軟性、臨機応変（判断力）な対応力。

次回は、9月29日の学会東京大会2日目「実践と研究の融合」部会で「職員の質とは何か」に関して福祉現場実践者と研究者の発表が行われる予定です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

関東ブロック長 梅津迪子



小島操さん



川村紘子さん



青木優子さん